

令和7年度第10回洞爺湖町教育行政審議会（会議録）

日 時：令和7年12月3日 水曜日 午後1時30分～午後2時30分

場 所：洞爺湖町役場3階 第2委員会室

出席委員：◎会長 ○副会長

| 区 分            | 氏 名     | 出欠 | 区 分             | 氏 名    | 出欠 |
|----------------|---------|----|-----------------|--------|----|
| 1号委員<br>(学校教育) | 内山 勇一   | ○  | 4号委員<br>(教育有識者) | ◎鈴木 淳  | ○  |
|                | 細野 輝彦   | ○  |                 | ○上林 宏文 | ○  |
|                | 佐々木 雅治  | ×  | 5号委員<br>(公共的団体) | 福島 正和  | ×  |
| 2号委員<br>(社会教育) | 木村 省平   | ○  |                 | 秋山 伸吾  | ○  |
|                | 泰地 ひとみ  | ×  |                 | 田伏 ひとみ | ○  |
|                | 京谷 常美   | ○  |                 | 三浦 和則  | ×  |
|                | 宍戸 一江   | ×  |                 | 宮本 好   | ○  |
|                | 佐々木 小代子 | ○  |                 | 宮田 敏夫  | ○  |
|                | 川上 由起子  | ○  | 6号委員<br>(公募)    | 浅利 弘樹  | ×  |
| 3号委員<br>(保護者)  | 白井 隆子   | ×  |                 | 國井 一宏  | ×  |
|                | 長谷川 尊裕  | ○  |                 | 高久 裕子  | ○  |
|                | 高橋 洋一   | ○  |                 |        |    |
|                | 折原 亜紀   | ○  |                 |        |    |
|                | 傳 尚邦    | ○  |                 |        |    |

(事務局)：教育推進課 細江課長  
 社会教育課 角田課長  
 教育推進課 大楽課長補佐

○細江教育推進課長

皆様、お忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。

次第 1、委嘱状交付。改めて委員になられた方へ教育長より委嘱状の交付をさせていただきます。

(新委員へ委嘱状交付)

○細江教育推進課長

次第 2、教育長挨拶。

○渋川教育長

皆さまこんにちは。

年の瀬も迫り、何かとご多用の中、本審議会にご出席いただき感謝申し上げます。

また、ただいま 2 名の方に新たに委員を委嘱させていただきました。どうぞよろしくお願いいたします。

早いもので皆様にご審議をお願いし答申をいただきましてから、10 ヶ月ほどが経過いたしました。この間、答申の内容を踏まえ、小中一貫教育の導入を目指した学校配置、さらには給食センターやプール施設のあり方について一定の方向性を持って前に進めているところでございます。

本日は、これらの進捗状況等についてご報告をさせていただき、皆様からのご意見を頂戴したいと考えております。また、現在は第 2 次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン、これに基づく教育政策を進めているところでございますが、来年度末をもって計画期間を終了しますことから、次年度、新たに第 3 次計画を策定する予定でございます。町の基本計画である洞爺湖町まちづくり総合計画と同時進行となりますことから、少しタイトなスケジュールになることも想定されますけれど、引き続き委員の皆様のお力添えを賜りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。それでは、この後事務局より説明させていただきたいと思いますのでご審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○細江教育推進課長

次第 3、ただいまの出席者数は 17 名でございます。

審議会条例第 7 条第 3 項の規定に基づき、委員の過半数を超えておりますので、ただいまから第 10 回洞爺湖町教育行政審議会を開会いたします。

次第 4、会長挨拶。

○鈴木会長

改めましてこんにちは。皆様お変わりありませんでしたでしょうか。

今、教育長からもありましたように1月からちょうど10ヶ月ほど経ったという形で、新たに2名の方の委嘱もありましたけども、答申を1月に示させていただいて、その間に、いろんな形で事務局を中心にお話がされていたというようなことを先ほど伺いました。

この後、事務局の方から詳細等々について説明があるかと思いますが、まだこういうところは必要かなとか、ある程度の方向性が見えてきても、洞爺湖町の子どもたちのために、ということが一番前提にして、皆様方からいろんな角度からご意見等をいただければと思います。新たな10年後、20年後、30年後の洞爺湖町のために、ぜひ、忌憚のないご意見を皆様方からお出しいただければと思います、よろしくお願いいたします。

短い時間でありますけど、この後年末、そして年明けという形でいろいろお忙しいところではありますが、ぜひよろしくお願いしたいと思います。私の方からの挨拶ということで終わりたいと思います。今日はよろしくお願いいたします。

それでは私の方で進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いをいたします。議事に入りたいと思います。

議事（1）洞爺湖町小中一貫教育基本方針について、そして（2）洞爺湖町給食センターの基本方針に事務局から説明をお願いいたします。

○細江教育推進課長

初めにお手元にございます資料確認をさせていただきます。

配付資料は、資料1「洞爺湖町小中一貫教育基本方針」、資料2「洞爺湖町給食センター基本方針」、資料3「洞爺湖町内プール施設の廃止方針」、その他「第2次洞爺湖町の教育目標と教育ビジョン改訂版」と、最後に先日いただきました「答申の概要版」の資料をお配りさせていただいております。

それでは、資料1の「洞爺湖町小中一貫教育基本方針」についての説明を始めさせていただきます。

令和5・6年度と2ヶ年にわたり、教育委員会より諮問させていただきました内容について、委員の皆様にご審議をいただき、今年10月に答申をいただいたところです。答申の内容につきましては、お配りしている概要版をご覧くださいと思います。

その後、審議会からの答申及び保護者のアンケート調査等を踏まえ、児童生徒にと

って魅力ある、質の高い教育を展開していくために適した学校配置施設形態について検討をいただくため、今年7月に学校関係者、保護者、地域代表者の方々による小中一貫教育導入の検討委員会を立ち上げ、そちらから提言をいただいたところです。教育委員会といたしましては、その提言の内容を十分に協議し、今回の洞爺湖町小中一貫教育の基本方針を策定し、町内3地区、虻田地区、洞爺湖温泉地区、洞爺地区において説明会を開催、10月にはパブリックコメントの実施を行ったところでございます。

地域の方々への説明が終了し、11月の教育委員会議において、この方針につきまして議決をいただいたところですので、委員の皆様にご報告をさせていただきます。

それでは、資料1をご覧ください。まず、方針策定の目的でございます。本方針は国の動向や洞爺湖町でこれまで取り組んできた学校種別の連携・接続の現状を踏まえつつ、洞爺湖町にふさわしい小中一貫教育を導入するにあたり、基本的な考え方について整理することを目的として策定したものです。

続きまして、2の方針策定の背景でございます。(1)小中一貫教育に関する国の動向について、平成19年の学校教育法の改正では、義務教育の目標として、小中学校が共通の目標に向けて取り組む姿勢が示されました。平成27年の改正では、小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う「義務教育学校」が新たな学校種として制度化され、併せて学校教育法施行規則の改正により、既存の小学校・中学校において、義務教育学校に準じて、小中一貫教育を行う「中学校併用型小学校」及び「小学校併設型中学校」が位置づけられ、小中一貫教育校を設置することができるようになり、さらには平成29年度には、各分野での学習指導要領においての学校団体間の接続が新たに示され、平成30年には、高等学校の学習指導要領においても、学校段階の接続が示され、子どもたちが社会で生きて働く資質・能力を学校教育等で確実に身につけるために、学校種間の連続性を意識した教育活動を行うことが一層求められる旨の内容を説明しています。

続きまして、2ページ目の(2)第2次「洞爺湖町教育目標と教育ビジョン」改訂版における一貫性、連続性のある教育活動の充実について、掲げております基本理念及び教育目標を示しているものでございます。

3ページ目の(3)洞爺湖町におけるこれまでの学校種間の連携・接続の現状では、文部科学省より、平成28年に発行された「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き等を参考としながら、町内の小中学校段階の教員研修等の取組を示し、今後は小・中学校の円滑な接続だけではなく、義務教育9年間の一貫性・連続性のある教育の推進を目指す旨を記載してございます。

(4) 洞爺湖町教育行政審議会からの答申では、先ほどもご説明させていただきましたが、令和7年1月にこの審議会よりいただきました答申の内容を、教育委員会において具体的な期限を定めて制度の導入に向けた取組を進めることを審議会として強く望むものである、という内容を強く受け止め、諸条件を整備・調整しながら、計画性を持って小中一貫教育の導入を目指す旨を示しています。

(5) 洞爺湖町小中一貫教育導入検討委員会からの提言といたしましては、審議会からの答申や町内の0歳児から中学校2年生までのお子様をお持ちの保護者を対象としたアンケート調査、こちらの実施は令和7年度の3月末までの実施で行いました。その結果を踏まえ、洞爺湖町小中一貫教育導入検討委員会において、洞爺湖町における今後の児童生徒数や学級編制の見通し、通学時間、職員数、施設整備、地域性、町の財政状況等を総合的に勘案し、子どもたちにとっての質の高い教育活動や適正な学習集団、学びに相応しい教育環境を整備する観点から協議していただき、提言を受けた内容となっております。

3. 洞爺湖町が目指す小中一貫教育として、子どもたちにとって予測困難な未来を生き抜くために、自らの手で人生を切り開き、多様な価値観や他と共生をしながら、持続可能な社会の創り手としての確かな力を身に付けていくことが求められていることから、小中学校の教職員が義務教育9年間の系統性・連続性に配慮しながら、相互に補完・協力し合い、より質の高い教育活動の推進を目指す小中一貫教育制度を町内すべての学校で導入することとし、次に掲げる基本方針に基づき進めます。基本方針の内容としては、①から③の内容となっております。

4. 洞爺湖町における小中一貫教育の具体的な取組でございます。こちらは、学校の配置、設置形態、使用校舎、設置年度について示しており、虻田小学校、洞爺湖温泉小学校、虻田中学校は義務教育学校として虻田小学校の校舎を使用し、令和10年4月を設置年度とし、とうや小学校、洞爺中学校は、小中一貫型小学校・中学校とし、とうや小学校、洞爺中学校、それぞれの校舎を使用し、こちらも令和10年4月設置年度とすることを定めたものを示しています。

続きまして(2)めざす子ども像の設定として、町内で統一したものを設定します。その子ども像を実現するために、それぞれの学校において、学校の教育目標等を掲げるなど、弾力的に進めていきます。なお、めざす子ども像の設定にあたっては、教育行政審議会からの答申やアンケート、町民参加の熟議等をとおして、家庭・地域の願いや児童生徒の思い等を反映できるよう工夫した取り組みを考えているところです。

(3) 洞爺湖町ならではの特色ある教育として、各学校において9年間を見通した一貫性のある教育課程を編成し「外国語教育」と「ふるさと教育」について、小中一貫

教育校に認められている教育課程の特例制度も活用しながら、洞爺湖町として統一したカリキュラムを編成し、洞爺湖町ならではの特色ある教育の具現化を目指すことを示しています。

(4) 系統性・連続性を意識した指導・支援として、9年間を見通した生徒指導や子ども理解、切れ目のない特別支援教育の充実など、小中の教員が互いに連携・協力し、義務教育9年間の系統性・連続性を意識した指導・支援に努めていく旨を示しております。

5. 洞爺湖町の小中一貫教育の評価・検証については、各学校で実施している学校評価を活用するとともに、各学校の学校運営協議会からの意見をいただくなど、客観的な評価検証に努める旨を示しております。

6. は洞爺湖町における小中一貫教育実施までの流れを示しているところです。今後の流れといたしましては、本年度中にめざす子ども像の設定を行う予定であります。来年度からの2ヶ年で、それぞれの地域で導入に向け準備委員会により進めていく予定でございます。小中一貫教育の基本方針については以上となります。

続きまして、資料2、洞爺湖町学校給食センターの基本方針について説明させていただきます。こちらも小中一貫教育の導入方針と同様に、令和5・6年度の2ヶ年にわたって、教育委員会からの諮問の内容について、委員の皆様にご審議いただき、今年の1月にいただいた方針を元に、生徒数の減少や施設設備の老朽化などを踏まえつつ、児童生徒にとって安全安心な給食提供並びに効率的な運営に資する学校給食センターの配置について検討いただくため、今年7月に学校関係者、保護者、地域代表の方々による学校給食センター検討委員会を立ち上げ、検討委員会からいただいた提言をもとに、教育委員会として、こちらの洞爺湖町の学校給食センター基本方針を策定し、町内3地区において、説明会の実施を終えたところでございます。

地域の説明会を終えたことにより、11月の教育委員会議において議決をいただいたところですので、皆様に報告をさせていただきたいと思っております。こちらの基本方針につきまして、内容を1ページから説明させていただきます。

1. 洞爺湖町学校給食センターの現状としては、虻田と洞爺の給食センターの現状について示しているものでございます。

次に、2. の(1) では、平成17年の町村合併の協議における確認内容となっており、現状のまま引き継ぎ当面は2ヶ所で運営、将来的には1ヶ所に統合して運営していくことが望ましい、というような内容となっております。

(3) では、令和5年度において、学校給食センター統合時期の見送りについて、当初の想定から、規模や費用が大きく乖離しているため、給食センターの統合時期を見

送ることとし、教育行政審議会に諮りつつ方向性を定めることとした旨の内容となっています。

(4) 令和6年度の教育行政審議会からの答申としては、今後の考え方として六つの例を示していただいたものを載せてございます。また、今後の方向性を考える際の視点として、2ページから4ページにかけて、審議会の委員の皆様からいただいたご意見をお伝えしているものでございます。

(5) は令和7年度洞爺湖町の学校給食センターの検討委員会において提言を示した内容を書いています。

3. 洞爺湖町学校給食センター基本方針として、洞爺湖町における学校給食センターについては、洞爺学校給食センターは現状維持、虻田学校給食センターは、近隣市町への業務委託とし、業務委託の実施時期といたしましては、小中一貫教育開設の時期に合わせまして、令和10年4月という内容で、この基本方針に沿って取組を進めていきたいと思っているところでございます。

以上です。

#### ○鈴木会長

小中一貫教育の基本方針と、学校給食センターの基本方針について、資料1・資料2に基づいて説明をいただきました。我々が示した答申、さらには7月に検討委員会があったという形で、そちらも合わせた内容になっております。後ほどいろいろとお聞きしたいと思いますので、とりあえず、この後引き続いて説明を受けたいと思います。

それでは続きまして、議事(3) 町内のプール施設に関する内容について、事務局から説明を受けたいと思います。よろしくお願いいたします。

#### ○角田社会教育課長

資料3、洞爺湖町内プール施設の廃止方針についてご説明をいたします。

この廃止方針につきましては、これまでの経緯や利用者の推移についてまとめまして、建物の設備の更新など、施設の存続には多額の費用を要することから、公共施設等総合管理計画や教育行政審議会からの答申を踏まえまして、学校水泳プールと併せて、今年度をもって廃止し、課題等を整理し検討を進めることとしております。

洞爺湖町プールにつきましては、今年の8月に循環ろ過装置の故障により、再開に向けては多額の費用と時間を要することから、当初、令和8年度をもってこの虻田地区のプールは廃止するという考えでございましたけれども、大規模な改修ということ

で、1年前倒しし、今年度をもって廃止するとさせていただいたものになります。では内容の方に入りたいと思います。

まず、1ページですけれども、1. 背景は今言ったようなところを記載してございます。

2. は、洞爺湖町内のプール施設における現状と課題ということで、虻田地区の洞爺湖町プール、そして学校水泳プールはこのような施設です、という説明でございます。

(2) は施設の改修履歴です。大体平成19年ぐらいからの数万円単位でかかっている主なものをここに掲載しております。近年ですと、毎年のように修繕費がかかっているということがお分かりいただけるかと思います。

(3) につきましては利用者数の推移でございます。こちらにつきましては洞爺湖町プールを例にしますと、10年前の平成26年度と比較しますと、平成6年度では10年前の約4割減となり、学校水泳プールにつきましては、令和元年度までの利用者数は増加傾向となっておりますけれども、それでも1,000人前後の利用にとどまっているという状況でございました。さらに、洞爺湖町プールにおいて、1日の利用者数を計算いたしました。大体1日平均30人ぐらい。学校授業で延べ1,200人ぐらいです。3,000人からそれを引くと約1,800人が一般の利用者ということになります。そうすると、やはりその数も少なくなっているということがこの表からお分かりいただけるかなと思います。

(4) 方針の位置づけとして、ここでは洞爺湖町公共施設等総合管理計画と本審議会の答申の内容を掲載してございます。総合管理計画においては、プールについては経年劣化が顕著になった際には廃止する予定、ということとしてございます。それから、教育行政審議会の答申においては、上から黒丸の三つ目、当面の間、洞爺湖町虻田地区のプールを学校水泳プールの代替施設として利用するけれど、今後大規模な修繕が必要となった場合には、近隣市町のプール施設を活用する可能性も検討する必要がある、という記載がございました。私どもといたしましては、今年度こんなに早く大規模改修が必要になるとは想定はしていなかったところでございます。

6ページでは、プール開放中止の経緯につきまして、先ほど概略を説明させていただきました。洞爺湖町プールにつきましては、今年度の8月、循環ろ過器の不具合による休止ということ。それから、学校水泳プールにつきましては、水槽のたわみ、鉄骨の錆等、維持することが困難であり修繕が必要な箇所が出てきたということで休止状態としております。

8ページ、4. 方針の検討について。比較検討として大体の具体的な数字も入ってお



りますけれど、これは改修した場合と、解体した場合の費用比較でございます。洞爺湖プールにつきましては、屋根が一番大きいのですが、屋根を全部改修するとなると、概算でございますが約 300,000 千円かかります。それから、循環器で 25,000 千円、水槽塗装で約 3,300 千円、合計で約 350,000 千円という高額なお金がかかります。これに対して、B 案、解体費ですと 100,000 千円。それでも 100,000 千円かかるのですが、解体して更地にしてしまうとその後の費用が発生しません。

②の学校水泳プールですけれど、同じく大規模改修、これは令和 3 年度ぐらいの見積もりでございますので、今はかなり高騰してございます。そのような考えで見ただけだと思いますけれど、最低でも 50,000 千円から 60,000 千円かかるということでございます。解体費用は 75,000 千円、これは今年概算で弾いていただいたものでございます。この二つを比較しますと、やはり改修にはかなりの費用負担がかかります。そのため、いずれ同じような問題が起こってくるということもありますので、今年度で廃止、という結論に至った次第でございます。

5. 今後の方針について、ということがこの方針の結論になります。プールにつきましては大規模改修が必要であることから、令和 7 年度をもって両施設を廃止します。学校事業および社会教育事業については、代替施設として民間施設や近隣自治体施設を利用する考えでございます。

説明は以上になります。

#### ○鈴木会長

ありがとうございます。プール施設の方針について説明がありました。プールの方が重たい内容になっていますけど、ここで各委員の方から小中一貫、給食センター、そして、プール施設と 3 本の説明を事務局より報告いただきましたので、ご意見、それからご感想、さらには、ここで要望といっても、方針ですのである程度決まったところで、どういう含みを持てるかわかりませんが、まずは各委員から意見をお話いただければと思います。

#### ○委員

プールのことですが、いかなる環境でも生きていける子どもを育てる、という観点からいくと、将来的にも水泳は必要になるため、改修費用が高額であるなら、その代替施設の見通しはついていきますか。

#### ○鈴木会長

私も実は9ページの方針について、「代替施設、民間施設及び」というフレーズがあるので、ちょっと具体的に聞きたいと思っておりました。

事務局の方より説明をお願いいたします。

○角田社会教育課長

見通しというところですが、近隣自治体とは既に協議を進めておりまして、利用可能ということになっています。

ただ、民間施設の方はまだ交渉できていないところがありまして、料金や時間というような具体的なところまで行き着いていないというところです。ですから、今の段階では近隣施設の利用を考えているということです。

○鈴木会長

具体的にその近隣施設というのはお話できますか。

○角田社会教育課長

豊浦町と伊達市、両方とお話をしています。

○鈴木会長

豊浦町にしても、伊達市にしても、移動する手段が難しいところですが、このあたり、例えば学校関係者はどのように受け止めているのでしょうか。

○委員

小学校でのプール事業は子どもにとって非常に楽しみな授業なので、できればプール授業は続けていきたい。

ただ、このような状況下ですので、これをどうやって調整するかといったときに、移動時間とか、それからコスト、そういったところも鑑みて、教育委員会の方に調整をお願いして、できるだけ子どもたちの楽しみであるプール授業を継続できるようご尽力いただきたい。

○委員

今年も非常に暑い夏でした。その中でプールがないというのは、子どもたちにとって非常にかわいそうだと思います。

そこで、国立公園内ではありますけど、湖の一角だけでも監視がついた遊泳場とか

できないものでしょうか。例えばフィンランドではサウナに入った後、湖に飛び込みますよね。そういうのができればいいなと思います。

○鈴木会長

特色ある教育活動、洞爺湖町ならではのというお話が今ありましたけども、具体的に今後どうなっていくのか、その辺りの措置対応については事務局の方にお願ひしますが、その前に委員がおっしゃられたように、やはり泳げる子、自分の命に関わることで、自分の命は自分で守る、ということを前提としたとき、そういう措置対応というのは保護者に見れば、非常にありがたい形になるのかなと思います。

その他、小中一貫教育や給食センターについて何かございますか。

○上林副会長

先ほど説明がありました保護者アンケート、それから説明会とパブリックコメントの中で、概ね肯定的な意見が多くてこうなったのだと思うのですが、ポイントといますか、概要についてご説明いただけると大変ありがたいです。

○細江教育推進課長

保護者アンケートにつきましては、昨年度末に実施しており、この後小中学校に在籍、もしくは入学予定のお子さんをお持ちの保護者の方からアンケートを取りました。そのアンケートの内容としては、学校の形態について、いくつかの例と内容を示し、あとは自由記述という形でご意見をいただきました。

説明会におきましては、いろいろなご意見をいただきましたけれども、小中一貫教育の部分については、これまで講演会の実施や町広報による説明と、リーフレット配布等を行い、一定程度ご理解をいただいたと受け止めているところです。

パブリックコメントにつきましては、1ヶ月間募集を行いましたがお意見はいただけませんでした。

一定程度の不安の声が、説明会やアンケート調査の中でもございましたが、小中一貫教育を進めるにあたって前向きなご意見も多数あったということで、町としては小中一貫教育導入を進めていくと定めたところです。

○上林副会長

答申を改めて読み返した際、初めの部分に審議会の思いがすごく良くまとめられたページだなと思ってしまして、「子どもの学びを通じて、学校や地域が元気になる。教

育施設や活動の場を通じて人が出会いつながり豊かな学びが生まれる。町民総がかりで」というこのところが、非常に良いフレーズだなと個人的に思っています。

今回示された方針については、皆さんで検討された内容だということで、外部の人間からすると非常に現実的な方針を定められたのかなと受け止めております。

#### ○鈴木会長

1月に我々の意見を取りまとめた答申を示させていただきましたが、その中で、委員の中から具体的なタイムスケジュールを示していただきたいという話があり、それが実際的には令和10年4月という形ですので、令和10年4月に向けて準備委員会等を進めていくという具体的な姿は見えてきていると感じます。

例えば、小中一貫教育でいうと、虻田・洞爺湖温泉地区と、洞爺地区という2つのエリアで、それぞれの教育活動を保障するような教育環境を整えるということですが、一方で、例えば義務教育学校と校舎別の小中一貫教育というところで、その違いというのも当然ありますので、そのあたり、今後学校を所管する校長先生方を中心に、いろんな教育が施されていくのかなと感じます。

我々が示した答申のソフト面の中に、具体的な子どもの姿というものもあるので、ぜひ、この辺りは一貫教育の中に具体的に示していただくことがすごく大事だなと思ったところでした。

#### ○委員

給食センター改修の件ですが、当初200,000千円の予定が1,300,000千円の結果ということで、当初の予定額が正しかったのかどうなのか。様々な環境整備、法整備があってシステムを変えてくのだと思いますが、審議期間が長過ぎる気がする。緊急の課題があってどんどん子どもが減っていく中で、一貫教育も4年後にスタートするのであれば、もっとスピーディーにするとより分かりやすいです。

時間が経つと、関心ある人がだんだんいなくなって、そういう制度が実施されるってことになるので。その辺をちょっと考えて欲しい。

#### ○鈴木会長

非常にタイムリー性が必要でないか、というお話だと思います。この予算が変わってきているというのは全国、世界レベルであるみたいですので、すぐに取組めば200,000千円で出来たかもしれないという、おっしゃるとおりかもしれません。

私も感じているところでは、入札がうまくいかない。資材が高騰してしまって入札

がうまくいかないっていう、そういうのもあります。そういう点ではこの「タイミング」というのはあるのかもしれませんが。

ちなみに、給食センターの基本方針 5 ページにあるのですが、洞爺湖学校給食センターは現状維持、そして虻田は近隣の市町へ業務委託。そして、業務委託は令和 10 年からとなっていますが、これだと虻田と洞爺が合わせて令和 10 年から業務委託なのかな、と最初読み取ったのですが、そうではないということです。

洞爺は現状維持で進められていく、そして虻田は近隣市町の業務委託を令和 10 年 4 月から行うというようなイメージですね。

ちなみに、近隣で業務委託をやっている市町はあるのでしょうか。

○細江教育推進課長

業務委託をやっている市町と言いますか、市町で共同給食センターを設置しているところが近隣にあります。

○鈴木会長

ということは、洞爺湖町が初めての業務委託で給食を対応するというような感じですか。

○細江教育推進課長

そうです。

○鈴木会長

その他、各委員ご意見ございませんか。

○委員

給食センターのことですけれども、洞爺地区は現状維持ですので、地域の声などの様子を見ていても、洞爺は今のところ変わらないからよかったな、という感じですが、今後も洞爺の給食を無くしたくないという強い思いは住民にあるので、その先の方が心配です。

小中一貫に関しても、小学校も中学校も校舎は別々だけど小中一貫になるということについて、小中学校の父兄は今も交流がすごくあり、そんなに変わらずに行くのだろうと安心しているような気はしますが、こうやっていろいろ話を聞いてきた私達にとっては、その先がすごく心配です。今回の答申に関してはそんなに強く意見が出る

とか、説明会の参加者が少なくて、やはり、まだ皆さんその先の先のことまでの危機感はないのだろうという印象です。そんなに大きな意見は出てないのですが、やはり虻田が業務委託になるということで心配はすごくあります。

○鈴木会長

そのとおりだと思います。令和10年4月から言いながらも、向こう20年30年先、もしかしたらどうなるのか不安だというところですけど、このあたり事務局いかがでしょう。

○細江教育推進課長

ご意見ありがとうございます、多分一番心配されているところだろうと思います。

説明会のときにもお話をさせていただいたのですが、小中一貫教育の検討委員会からいただいた提言の中に、付帯意見といたしまして、今後、子どもの人数等が減っていくということも考えていかなければいけないという中で、今まで学校の配置等について、大体10年間隔で町として検討を行ってきたところ、この先5年後10年後の子どもたちの減少率が見えてきている中、5年後の令和12年に再度学校のあり方について検討すべきではないか、というご意見をいただいております。

そうすると、先の学校の状況について検討していかなければいけない。そうなればおのずとして給食センターの部分も検討が必要になってくるところでございます。ですので、委員会としてはこの付帯意見を受け止めまして、5年後の令和12年に、また再度学校配置の部分での検討は必要だと考えております。

○鈴木会長

ぜひ、そういう発信できる場が定期的にあるといいと思います。小中一貫教育の基本方針6ページ5番目に「評価・検証」という項目があるので、このあたりは小中一貫教育のみならず、給食センターも含めて、常に地域の方々や保護者と話ができる、そういう場があるといいのかもしれない。そのためには、やはり興味関心を持っていただく。そういう発信も、ある面大事なのかなと思います。何やら説明会に全然人が集まらなかったというお話が委員の中からありましたけど、ぜひ、こういう答申という形で具体的にイメージできるような資料もあるので、そのあたりは事務局の方からも地域の方に教育にたくさん目を向けていただけるような関わりを、会長として事務局にお願いしたいと思います。

私も洞爺湖町の人間じゃないのですが、本当に洞爺湖町の子どものためという

ことを考えると、発信をするということの大事さがあるかと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員

プール施設の廃止方針の決定時期はいつですか。

○角田社会教育課長

これから条例を廃止するという、条例上から削除する作業がありますので、それには議会の議決が必要ですので、これをまず議員へ説明し、それから方針決定といたします。予定としては12月から1月ということです。

○鈴木会長

あと、いかがでしょうか。

○委員

小中一貫の教育基本方針、資料1の確認ですけど、5ページの4について、次年度、虻田小学校に虻田中学校が入るとするのは、皆さんご承知だと思うのですが、洞爺湖温泉小学校は閉校が決まったのですか。

○細江教育推進課長

虻田小学校に虻田中学校が入るとするのは、令和8年の4月に校舎を移転するというだけであって、小中一貫教育ですとか、義務教育学校に変更するというような状況ではありません。

ここに示しているのは、虻田小学校、洞爺湖温泉小学校、虻田中学校の3校で一つの義務教育学校を立ち上げるというような形ですので、この時点で3校全てを閉校して新たな義務教育学校を立ち上げるという形になります。

○鈴木会長

よろしいですか。

ちなみに、義務教育学校の校名はもうあるのですか。

○細江教育推進課長

これからです。来年度の準備委員会でどういう形で決めるのか、募集をするのか、

というのも含めて検討していただこうと思っています。

○鈴木会長

あと、いかがでしょうか。

《なしの声》

それでは資料1から3までの内容について各委員の方から、いろいろお話いただいた部分も含めて、この後事務局の方で整理していただきながら準備を進めていただく形になると思います。このあたりは事務局の方からもいろいろ発信していくという形になるかと思うので、その都度注視しながら、各委員の方もよろしく願いたいと思います。

次の議事に進みたいと思います。

その他、ということで教育ビジョンの策定について、事務局の方から説明をお願いいたします。

○細江教育推進課長

第3次洞爺湖町教育目標と教育ビジョンということで、令和9年度から令和18年度の10ヶ年分のビジョンの策定をこの審議会ですでにいただくことと定めているため、この後お願いしていくことになります。お手元に第2次教育ビジョンをお配りさせていただいております。

教育ビジョンに関しましては、町で作っております総合計画をもとに定めていくもので、総合計画の方が今実際に動き出している状況にあります。ですので、教育委員会としてこの第3次教育ビジョンの検討に入らせていただくのは、大体来年の7月ぐらいより会議を始めさせていただきたいと考えております。

また、日程等詳しいことが決まりましたら、改めてご通知をさせていただくことになると思います。前回これを作るにあたっては、アンケート調査の実施等、そういう部分もありますので、来年度は4回から5回程度の審議会開催を考えているところでありますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○鈴木会長

今説明のありましたビジョンについて、何かご意見、質問ありますでしょうか。

令和9年度から令和18年度の10ヶ年計画ということで、町長部局の総合計画があって、そこにセットで教育ビジョンがあるという形での改定作業になると思います。



先ほど小中一貫教育の中で、町として一つ目指す子ども像を策定したい、というお話がありました。このあたりと、教育ビジョンとの関わりは非常にリンクする部分であるのかと感じています。

第2次を見ると目指す子ども像というフレーズはないのですが、具体的な子どもをイメージするような表記はありますが、その辺りが一つあってもいいのではないかと。あと、この文字面だけで読むとなると、なかなか難しいところもあるので、これは改訂の中で来年の7月から審議会が始まるようですが、この答申のように何かイメージできるような、ビジョンがひと目でわかるようなものがあると、少しでも地域の方にも見てもらいながら、興味を持っていただくというのも一つかと思います。

#### ○上林副会長

これまでもの積み上げもあると思うのですが、来年1年の中で新たな視点も加えていただくと良いと思います。

#### ○鈴木会長

ぜひ、向こう10年というイメージで各委員いろんな角度からご意見等をいただければありがたいと思います。

それでは教育ビジョンの方はこれでよろしいでしょうか。

《なしの声》

一度見ておいていただきたいという部分ですので、何か気になるようなことなど、そのことを一つ二つ頭の片隅に入れておいていただければありがたいと思います。

それでは、全体をとおして各委員の方から何か確認したいこととか、この審議会の進め方とか、それも含めて何かあればお出しいただければと思いますけれど、どうでしょうか。

《なしの声》

事務局の方から何かこの後ありますでしょうか。

《なしの声》

それでは、以上をもちまして第10回教育行政審議会を終了いたします。